

4. 国際研究ネットワーク

- 1) 国際的な共同研究・研究交流
- 2) UTFORSK プロジェクト
- 3) 国内外招聘研究者一覧

1) 国際的な共同研究・研究交流

■ジェンダー研究所所属の研究者が2024年度に研究交流または共同研究をした海外の研究者

| 海外研究者氏名 | 所属機関（職位） |
|---------------------|---|
| 黄長玲 | 国立台湾大学（教授） |
| 楊婉瑩 | 台湾国立政治大学（教授） |
| Soo-hyun Kwon | 韓国ジェンダー政治研究所（研究委員） |
| Jiso Yoon | 韓国女性政策研究院国際協力センター（センター長） |
| Devin K. Joshi | Singapore Management University（准教授） |
| 日下部京子 | アジア工科大学院大学（AIT）（教授） |
| Jung Hwan Lee | ソウル大学（准教授） |
| Eun Jeong Cho | 韓国国家安保戦略研究院（研究員） |
| Ji Hyung Lee | 淑明女子大学（教授） |
| Eun Kyung Lee | ソウル大学（准教授） |
| Celeste Arrington | George Washington University（准教授） |
| Kazue Harada | Miami University (Associate Professor) |
| Sunyoung Yang | The University of Arizona (Assistant Professor) |
| Andrea Gevurts Arai | University of Washington (Assistant Professor) |
| Chong Eun Ahn | Central Washington University (Associate Professor) |
| Lin Li | University of St. Thomas (Assistant Professor) |
| Belinda Qian He | University of Oklahoma (Assistant Professor) |
| Linda White | Middlebury University（Professor） |
| Ayako Kano | University of Pennsylvania（Professor） |
| Melissa Deckman | Public Religion Research Institute（CEO） |
| Yumi Moon | Stanford University（Professor） |
| Chizu Sato（佐藤千寿） | Wageningen University (Lecturer) |
| Wendy Harcourt | Erasmus University in The Hague (Professor) |
| 宋少鵬 | 中国人民大学（教授） |
| Cai Yiping（蔡一平） | University of California Irvine (Ph.D. Candidate) |

■ジェンダー研究所所属の研究者が 2024 年度に研究交流または共同研究をした海外の研究者

| 海外研究者氏名 | 所属機関（職位） |
|----------------------|--|
| 鐘仁耀 | 華東師範大学（教授） |
| 李晶 | 華東師範大学（副教授） |
| 張継元 | 華東師範大学（講師） |
| 王橋 | 中国社会科学院（研究員） |
| Petrice R. Flowers | University of Hawai'i—Mānoa (Professor, Political Science) |
| france rose hartline | 日本学術振興会外国人特別研究員 |

■ジェンダー研究所所属の研究者が研究交流・共同研究をしている海外の研究機関

アジア工科大学院大学（AIT）環境資源開発研究科「ジェンダーと開発」専攻

【担当】日下部京子（AIT 教授）、申琪榮（IGS 教授）、嶽本新奈（IGS 特任講師）

【共同研究・研究交流の概要】

国際教育交流プログラム「AIT ワークショップ」（本学と AIT の博士前期課程の院生が双方の国を訪問し、研究調査ならびに研究交流を行う短期交換研修プログラム）を 2001 年の開始時から毎年、ジェンダー研究所とともに運営しているほか、所属教員らが研究交流を続けている（本報告書 52 頁参照）。

ソウル大学日本研究所

【担当】申琪榮（IGS 教授）

【共同研究・研究交流の概要】

学術雑誌『日本批評』海外編集委員を務める。

西江大学社会科学研究所

【担当】申琪榮（IGS 教授）

【共同研究・研究交流の概要】

『社会科学研究』編集委員。

釜山大学女性学研究所

【担当】申琪榮（IGS 教授）

【共同研究・研究交流の概要】

『女性学研究』編集委員。

イギリス政治学会学術雑誌 *Politics*

【担当】申琪榮（IGS 教授）

【共同研究・研究交流の概要】

Politics 編集委員。

■ジェンダー研究所所属の研究者が研究交流・共同研究をしている海外の研究機関

George Washington University, Elliott School of International Affairs, Sigur Center for Asian Studies

【担当】申琪榮（IGS 教授）

【共同研究・研究交流の概要】

サバティカル中の Visiting Scholar として所属

華東師範大学

【担当】大橋史恵（IGS 准教授）

【共同研究・研究交流の概要】

科研費国際共同研究加速基金（国際共同研究強化 B）「人民公社期の中国農村における生活秩序の変化とジェンダー」の分担者として現地研究者との協力において調査を実施している。

中国社会科学院

【担当】大橋史恵（IGS 准教授）

【共同研究・研究交流の概要】

科研費国際共同研究加速基金（国際共同研究強化 B）「人民公社期の中国農村における生活秩序の変化とジェンダー」の分担者として現地研究者との協力において調査を実施している。

ノルウェー科学技術大学（NTNU）ジェンダー研究センター

【担当】戸谷陽子（IGS 所長）、石井クンツ昌子（お茶の水女子大学理事・副学長／グローバル女性リーダー育成研究機構長）、吉原公美（お茶の水女子大学リエゾン・URA センターリサーチ・アドミニストレーター）ほか

【共同研究・研究交流の概要】

UTFORSK プロジェクト「Teaching Gender Equality and Diversity in Norway and Japan」：日本とノルウェーにおけるジェンダー、ダイバーシティについての国際比較研究と、大学院レベルのジェンダー研究教育ペダゴジー開発と実践の共同研究。ノルウェー高等教育・技能局（HK-dir）の UTFORSK 助成金プロジェクト（2021 年 8 月～2025 年 7 月）とバーチャル・エクスチェンジ／COIL パートナシップ・イニシアチブ（2023 年 3 月～12 月）の活動と並行して実施している（本報告書 49 頁参照）。

【国内外関連研究会】

- 政治代表におけるジェンダーと多様性研究会（Women and Diversity in East asian political Representation（Wonder））（申）
- 日本政治学会「ジェンダーと政治」研究会（申）
- 国際移動とジェンダー研究会（大橋）
- 経済理論学会分野別分科会・ジェンダー（大橋）
- International Studies Association: Feminist Theory and Gender Studies （FTGS）（本山）
- Gender and Diplomacy (GenDip)（本山）
- 国内の女性学・ジェンダー研究センターとのネットワーク
ジェンダー関連学協会コンソーシアムへの参加　ほか

2) UTFORSK プロジェクト

国際比較研究とその最新成果を研究教育に応用する国際共同事業

UTFORSK プロジェクト

UTFORSK プロジェクト「Teaching Gender Equality and Diversity in Norway and Japan」：日本とノルウェーにおけるジェンダー、ダイバーシティについての国際比較研究と、大学院レベルのジェンダー研究教育ペダゴジー開発と実践の共同研究プロジェクト。5年間にわたる INTPART プロジェクト（ノルウェーリサーチカウンシルの国際共同研究助成金 International Partnerships for Excellent Education, Research and Innovation (INTPART) による、Norway-Japan: Bridging Research and Education in Gender Equality and Diversity (NJ_BREGED) プロジェクト。ノルウェー科学技術大学 (NTNU) のジェンダー研究センターと IGS とで、2019 年 4 月～2023 年 9 月の期間、教員・研究者・院生の相互派遣および、ノルウェーと日本のジェンダー平等についての比較研究、セミナーやワークショップの開催などを進め、共同研究の成果を書籍として刊行）の実績が評価され採択されたプロジェクト。ノルウェー DIKU: Norwegian Agency for International Cooperation and Quality Enhancement in Higher Education の助成を受け、ジェンダーおよびダイバーシティ研究教育の質を高めるための新しい教育戦略を構築するプロジェクトを展開（2021 年 8 月～2025 年 7 月）。学生、若手研究者、教員が、パートナー大学での共同セミナーや共同指導を経験するなど、質が高く活力に満ちた、国際的な学びの環境を提供する。研究発表や産学連携への参与など若手研究者への機会提供や、論文の共同執筆など研究者同士の将来的なパートナーシップ発展につながる活動も行う。また、SDGs のジェンダー・ダイバーシティ関連の目標達成に資する成果を目指す。2024 年度は、NTNU より博士課程大学院生 3 名・修士課程院生 2 名を各 2 ないし 3 か月間受け入れ、本学からは 2 名の博士前期課程院生を派遣し、次年度に向けてさらに博士前期課程院生 2 名の派遣候補者を選考した。

2024 年度 UTFORSK プロジェクトメンバー

《NTNU》グロ・コースニス・クリステンセン（学際的文化研究学部長・教授：プロジェクトマネージャー）、ジェニファー・ブロンラ（准教授：プロジェクト・コーディネーター）、プリシラ・リングローズ（教授）、シリ・エイスレボ・ソレンセン（ジェンダー研究センター長・教授）

《IGS および本学》小林誠（基幹研究院人間科学系教授）[本学側代表]、戸谷陽子（IGS 所長）[本学側プロジェクト・コーディネーター]、石井クンツ昌子（理事・副学長）、吉原公美（リサーチ・アドミニストレーター）

3) 国内外招聘研究者一覧

■ 2024 年度 海外からの招聘研究者

Chizu Sato (ワーゲニンゲン大学・オランダ)

IGS 国際シンポジウム「フェミニズムとコモニング」(23 頁参照)

Wendy Harcourt (エラスムス・ロッテルダム社会科学大学院大学・オランダ)

IGS 国際シンポジウム「フェミニズムとコモニング」(23 頁参照)

宋少鵬 (中国人民大学・中)

IGS 国際シンポジウム「中国における農村・ジェンダー・モダニティ」(26 頁参照)

IGS セミナー「国際社会と中国」(37 頁参照)

許秀雯 (台湾伴侶權益推進連盟・台)

IGS セミナー「台湾と日本における、トランス・インクルーシブなキャンパスづくり」(29 頁参照)

簡至潔 (台湾伴侶權益推進連盟・台)

IGS セミナー「台湾と日本における、トランス・インクルーシブなキャンパスづくり」(29 頁参照)

蔡一平 (カリフォルニア大学アーバイン校・米)

IGS 国際ワークショップ「アジア太平洋をめぐる地政学的抗争とジェンダー」(35 頁参照)

IGS セミナー「国際社会と中国」(37 頁参照)

■ 2024 年度 国内招聘研究者

小田原琳 (東京外国語大学) IGS 国際シンポジウム「フェミニズムとコモニング」(23 頁参照)

岩島史 (京都大学) IGS 国際シンポジウム「フェミニズムとコモニング」(23 頁参照)

姚毅 (大阪公立大学) IGS 国際シンポジウム「中国における農村・ジェンダー・モダニティ」(26 頁参照)

田原史起 (東京大学) IGS 国際シンポジウム「中国における農村・ジェンダー・モダニティ」(26 頁参照)

李亜姣 (宇都宮大学) IGS 国際シンポジウム「中国における農村・ジェンダー・モダニティ」(26 頁参照)

リンダ・グローブ (上智大学) IGS 国際シンポジウム「中国における農村・ジェンダー・モダニティ」(26 頁参照)

長島佐恵子 (中央大学) IGS セミナー「台湾と日本における、トランス・インクルーシブなキャンパスづくり」(29 頁参照)

河野禎之 (筑波大学) IGS セミナー「台湾と日本における、トランス・インクルーシブなキャンパスづくり」(29 頁参照)

Misha Cade (東京大学) IGS セミナー「一緒に学ぼう！性的同意と第三者介入ワークショップ」(31 頁参照)

治部れんげ (東京工業大学) IGS セミナー「メディアにおける『炎上』の構造と発信者としての私たち」(33 頁参照)

秋林こずえ (同志社大学) IGS 国際ワークショップ「アジア太平洋をめぐる地政学的抗争とジェンダー」(35 頁参照)

桐山節子 (同志社大学) IGS セミナー「沖縄における共有地とジェンダー」(39 頁参照)

戸邊秀明 (東京経済大学) IGS セミナー「沖縄における共有地とジェンダー」(39 頁参照)